

群 教 セ	F12 - 01
	平20.240集

# 情報モラルの指導に関する研究

## ーインターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成ー

長期研修 I 研修員 丸山千恵美 中里 則夫

### 《研究の概要》

児童生徒のインターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成を目指して、「情報社会の光と影」から情報モラルを理解させ、学んだ情報モラルを日常生活で継続して生かせるような指導を実践した。具体的には、情報社会の現状、協力校の児童生徒の実態、発達段階に合わせたアニメーション教材や「情報モラルハンドブック」を作成し、授業で活用した取組を提案する。

**キーワード** 【情報教育 情報モラル インターネット 光と影 継続】

## I 研究の背景と目的

### 1 研究の背景

現在、社会の情報化は急速に進展している。学校でもコンピュータやインターネットを活用した授業が行われ、児童生徒の学習に効果を上げている。日常生活においても、コンピュータや携帯電話からインターネットに接続して、様々な情報を簡単に手に入れることができたり、買い物ができたりするなど生活が快適で便利になった。また、情報の表現や発信についても、個人が容易にできるようになった。

一方、氾濫する有害情報に簡単に触れることができたり、ブログ（ウェブログ）、プロフィールサイト、電子掲示板などへの不適切な書き込みなどのトラブルが頻発したりと新たな問題も生まれている。そして、このような問題には、大人だけでなく児童生徒も直面している。今まで家庭や学校、地域社会に守られていた児童生徒が、携帯電話やコンピュータなどを通してインターネットに接続することで、社会の闇の部分に直接つながってしまう危険性が高くなってきた。

実際に、児童生徒が、インターネット上の掲示板で誹謗中傷される被害に遭ったり、逆に匿名性ゆえの軽い気持ちで、掲示板に誹謗中傷を書き込み、加害者となってしまったりするトラブルが後を絶たない。また、児童生徒が、おもしろ半分に、インターネット上に殺人などの予告を書き込み、補導されるという事件も起きている。

平成19年度に、群馬県教育委員会が「児童生徒の携帯電話・インターネット実態調査（以下県の調査とする）」（対象：県内小学校5年生808人、

中学校2年生914人）を行った。そこで、携帯電話（家族との共用を含む）を、小学校5年生では33.9%、中学校2年生では63.1%の児童生徒が所有していることが分かった。また、家庭において、コンピュータや携帯電話を用いて、インターネットを1時間以上利用している中学校2年生が、約40%いるという状況も明らかになった。

自治体によっては、インターネット利用で生じる様々な危険から児童生徒を守るための取組として、コンピュータや携帯電話のフィルタリングの設定を呼びかけたり、小中学生が携帯電話を学校へ持ち込むことや所持することの禁止の呼びかけを行ったりしているところもある。また国も、児童生徒が学校に携帯電話を持ち込むことについて、具体的な規制を行う方向性を固めた。

このような状況の中で、児童生徒の情報モラルの育成が急務であるとされている。児童生徒に、インターネットを正しく安全に利用するための考え方をしっかり身に付けさせていけば、事件やトラブルの多くは未然に防ぐことができたかもしれない。そこで、児童生徒がインターネットを利用する上で、事件やトラブルの被害者にも加害者にもならないように、インターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度を身に付けさせることが必要であると考え、本研究を行った。

### 2 研究の目的

児童生徒のインターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成を目指して、情報社会の現状、協力校の児童生徒の実態、発達段階に合わせた教材を作成し、授業で活用した取組を提案する。

## II 研究の内容

### 1 研究の基本的な考え方

県の調査は、小学校5年生と中学校2年生の児童生徒を対象として行われた。

今後、ますます情報社会は進化発展をしていくと考えられる。将来、そのような中で生きていくすべての児童生徒に、インターネットを正しく安全に利用する考え方や態度を育成していかなければならない。

そこで、協力校の小中学校の全学年を通して、インターネットが使える携帯電話とコンピュータの所有の実態と利用時間を調査し、このような機器をどのくらいの学年から所有し、学年が上がるとその所有がどのくらい増えるか、危険とつながる可能性のあるインターネットをどのくらい利用しているか、その実態を明らかにする。

また、学校で情報モラルを指導していく教職員にも調査を行い、これらの調査結果から、児童生徒がインターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成を図る取組について提案する。

テレビや新聞では、携帯電話やコンピュータによるインターネットの利用を起因とした様々なトラブルが取り上げられている。このようなことから、学校における情報モラルの授業でも、情報社会の影の部分の部分を強調して、注意を喚起したり、禁止をしたりするブレーキの指導が中心となっている。こうした指導は、危険を回避する面では効果があるが、場合によればこのブレーキが利きすぎて、「情報機器さえ使わなければ安全」と児童生徒に思わせてしまうこともある。そこで、将来、情報社会に積極的に参画を行っていかなくてはならない児童生徒に、情報社会の良い面、便利な面である「光の部分」についても取り上げて示し、学ばせていく必要がある。そして、日常のモラルを基に相手への配慮や適切な判断力などの心を耕す部分と、危険の回避についてをバランス良く指導し、インターネットの正しく安全な利用方法について学ばせていくことが大切だと考える。

### 2 調査の対象

- |               |        |
|---------------|--------|
| ○協力校A（小学校）の児童 | （362人） |
| 教職員           | （17人）  |
| ○協力校B（中学校）の生徒 | （344人） |
| 教職員           | （26人）  |

## 3 調査の内容

### (1) 児童生徒対象

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・携帯電話、インターネットを利用できる環境の有無とその利用実態</li><li>・携帯電話、インターネット利用における危険性の認識状況</li><li>・携帯電話、インターネット利用について、家庭でのきまりや約束の有無など</li></ul> |
|---|

### (2) 教職員対象

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・携帯電話、インターネット利用に関する指導で困っていること</li><li>・児童生徒の携帯電話、インターネット利用実態の把握の状況</li><li>・携帯電話、インターネット利用における児童生徒への指導の状況など</li></ul> |
|---|

## 4 調査の方法

質問紙法（SQSアンケート方式）による。

## III 調査の実施

### 1 調査項目の選定

協力校の実態と全県の実態を比較できるように、県の調査「児童生徒の携帯電話・インターネット実態調査」を参考に、調査項目を選定する。

### 2 データの分析

各協力校において、児童生徒の携帯電話所有率を調査した結果（次頁図1）を見ると、協力校Aも協力校Bも学年が上がるにつれ、携帯電話の所有率が高くなっている。特に、「自分専用」の携帯電話の所有の割合が、学年が上がるにつれて高くなっている。

協力校Aの小学校5年生と県の調査を比べてみると、家族と共用の携帯電話の所有率については、ほぼ県の調査と同様になっているのに対し、自分専用の携帯電話の所有率は31.6%で、県の調査結果の17.1%に比べ多くなっている。また6年生については、約二人に一人が自分専用の携帯電話を持っている。これは、高学年になると塾通いが増え、帰りが遅くなりがちであることや、友達の家遊びに行ったときに、家の人に連絡をとるといった防犯のための所有が多いと考えられる。

協力校Bの中学校2年生においては、家族と共用の携帯電話について、県の調査よりも10ポイント下回っているのに対し、自分専用の携帯電話の所有率は50.5%で、県の調査の47.7%に比べやや多くなっている。これは、学区域が広く田園地帯で公衆電話の設置数が少ないことなどから、連絡や安全を確認するための手段として、生徒専用の

携帯電話を保護者が持たせている場合が多いためと考えられる。

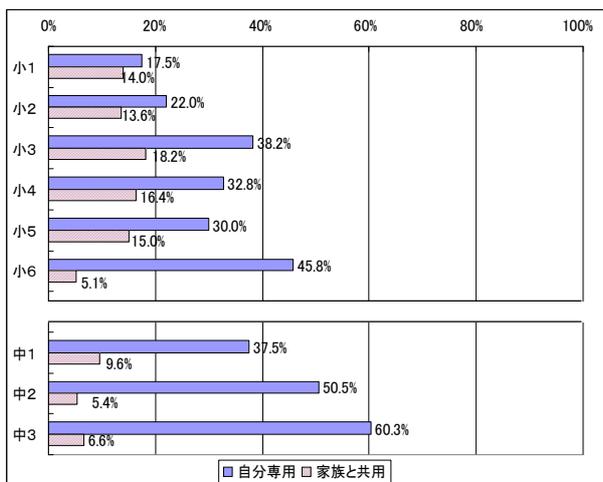


図1 協力校における児童生徒の携帯電話の所有率(%)

協力校Aにおいて、インターネットが使えるコンピュータの所有率は、「家族と共用」「自分専用」を合わせてどの学年も70%を超えていた(図2)。小学校1年生の児童でも、インターネットが使える「自分専用」のコンピュータを7.0%所有していた。このようなことから、多くの児童は、家庭において、コンピュータを用いて、手軽にインターネットを利用できる環境にあることが分かった。また、携帯電話やコンピュータの所有に加え、インターネットに接続可能なゲーム機を約20%の児童が所有していることから、児童にとってインターネットがますます身近なものになってきていると考えられる。

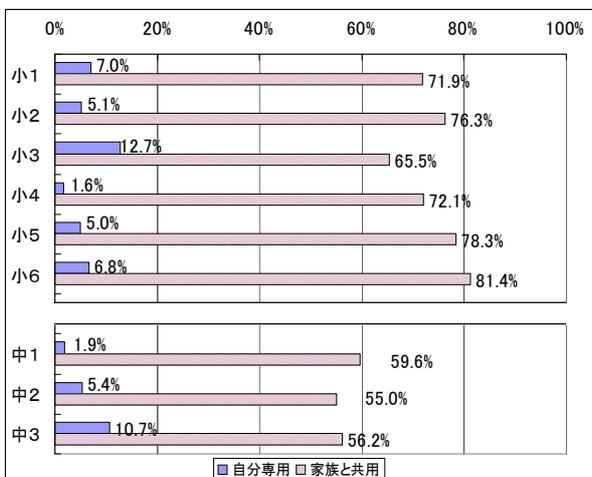


図2 協力校における児童生徒のインターネットが使えるコンピュータの所有率(%)

携帯電話やインターネットの1日の利用時間について調べたところ、図3のように協力校Aでは、低学年から、毎日のように利用する児童がおり、1年生でも、時間の長短はあるものの、約60%の児童が家庭において携帯電話やインターネットを利用している。また、3時間以上、携帯電話やインターネットを利用している児童は、4年生で3.3%、6年生で6.8%いる。これらの児童のインターネットに接続できる機器所有の状況を調べたところ、ほとんどが自分専用の携帯電話を持っていることが分かった。携帯電話からインターネットに接続することも可能なことから、協力校Aでは、低学年から、日常のモラルを中心とした心を耕すような指導と共に、インターネットを正しく安全に利用するための考え方を継続して学ばせていく必要がある。

協力校Bでは、中学校2年生で3時間を超えて利用している生徒の割合が17.1%で、他の学年と比べても高くなっている。学年内で、携帯電話を所有していない生徒は約20%おり、また30分以内と短時間しか利用しない生徒も19.8%であり、その利用状況は生徒の間で差がある。そのため、利用経験の少ない生徒にも、インターネットの良い点や注意する点について具体的にイメージできるようにさせてから、正しく安全な使い方について、自分たちで考えていく学習を行う必要がある。

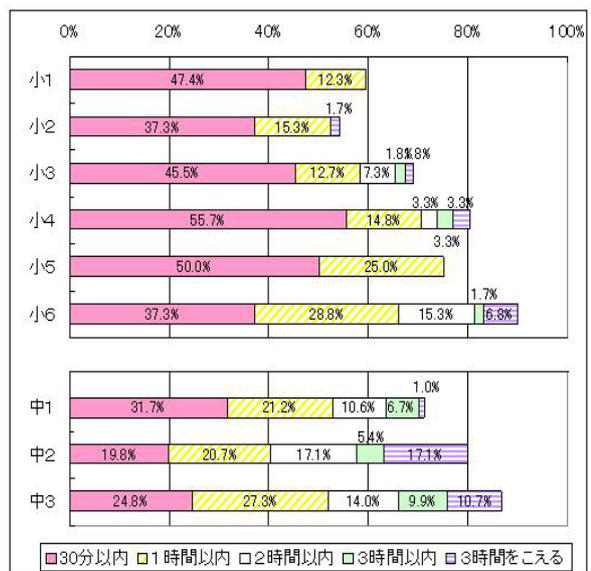


図3 携帯電話やインターネットの1日の利用時間の割合(%)

教職員が「情報モラルの指導で困っていること」についてを調べたところ、協力校A、B共に「専

専門的な言葉が分からない」「事件やトラブルに対応した授業に適する教材がない」「何を取り上げたらいいか分からない」という回答が多かった(図4)。

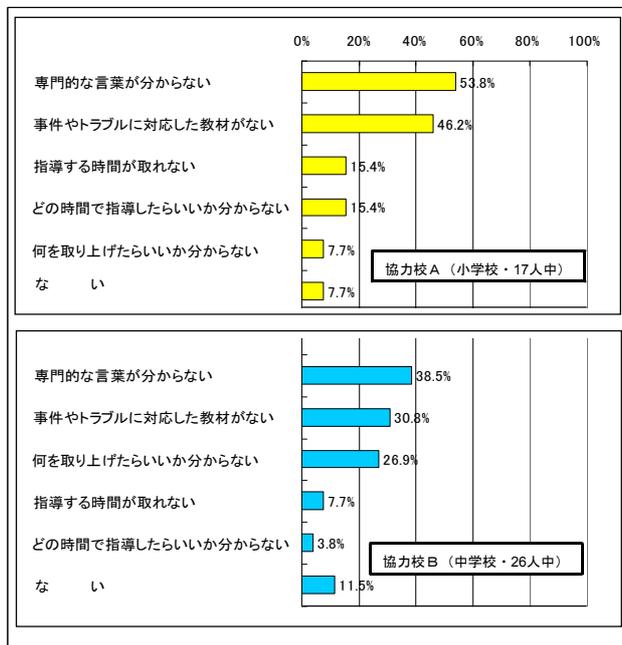


図4 教職員が情報モラルの指導で困っていること(複数回答可)

また、「教職員が4月から3ヶ月の間に情報モラルの指導で行ったこと」について調べたところ、協力校A、Bどちらも「モラルやマナーをしっかりと守る」という情報モラル全般にかかわることが最も多かった。一方で、「話したり注意したりしたことがない」という回答が協力校Aでは38.5%と多く、協力校Bでは11.5%と少なくなっていた(図5)。

協力校Aで、「話したり注意したりしたことはない」と回答した教職員の二人に一人が、「事件やトラブルに対応した教材がない」「専門的な言葉が分からない」と答えていた。このことから、情報モラルに関する知識が少ない人にとって、指導する教材がないと指導しにくいということが分かった。

また、協力校Bでは、「危ないサイトを使わない」「自分や他人の写真を公開しない」「他人の悪口を書き込まない」など具体的な指導を行っていた。ただし、26人中19人の教職員は、一つか二つの項目しか指導しておらず、残りの7人の教職員が、五つ以上の項目について指導しており、校内で具体的な情報モラルの指導を行っている教職員は限られていることが分かった。

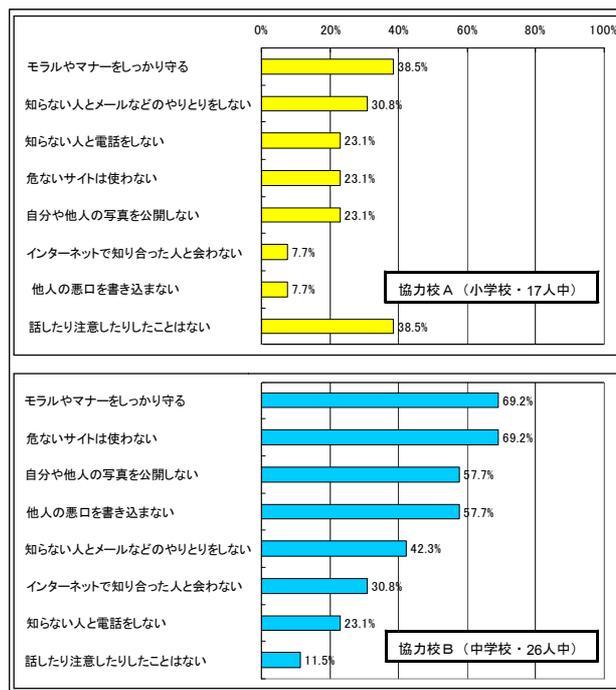


図5 教職員が4月から3ヶ月の間に情報モラルの指導で行ったこと(複数回答可)

このように、協力校A、B共に、教職員全員が情報モラルに関する知識をもっているとは限らず、情報化の進展の速さに対応する教材も十分でないために、指導がしにくい状況であることが分かった。

### 3 分析結果の活用

現在、多くの児童生徒が、携帯電話やインターネットを利用できるコンピュータを所有していることが分かった。今後は、情報化の進展に伴い、さらにこれらの情報機器の所有が増えていくと考えられる。また、インターネットは、すでに学校において、学習の中で利用されていることも考慮し、今現在、情報機器を所有している、していないにかかわらず、小学校低学年の早い時期から情報モラルの指導に取り組んでいく必要がある。それには、児童生徒の発達段階に合わせ、便利な面と注意しなければならない面である「情報社会の光と影」について取り上げ、インターネットを正しく安全に利用するための方法を学ばせることが大切である。

また、教職員の情報モラルに関する知識が不足していることや、情報化の進展に合った教材が十分でないということから、児童生徒の発達段階や、実態に合わせて教材を作成し、活用していく必要があると考える。

## IV 調査結果を生かした協力校A(小学校)における教育実践

### 1 実践の基本的な考え方

調査結果から、協力校Aにおいては、児童の実態や発達段階に応じて情報モラルの指導を積み重ねていくことが大切であると考えた。そこで、群馬県総合教育センター（以下本センター）における先行研究（H14）で示された情報モラルの育成に必要な八つの指導項目について、低学年から、日常のモラルの指導を中心に、情報社会でも重要となる相手を思いやる気持ちや自分を律して正しく判断する力を育成する。さらに、中高学年では、情報機器やインターネットの利用が多くなることから、情報社会の特性、インターネットの利用にかかわるモラルなどについても、一つ一つしっかり身に付けさせていく。このような指導を積み重ねることによって、今後、ますます進展する情報社会において、将来、新たな問題に直面しても、正しく判断し対応できるようになると考える。

#### (1) 「情報社会の光と影」から学ぶ情報モラル

情報社会に初めて接する小学校での情報モラルの指導は、「情報社会の影」の部分だけを取り上げて、恐怖心をむやみに煽るのではなく、情報機器を活用するとどのようなことができるかなど「情報社会の光」の部分を示すことが大切である。そして、情報機器の活用の意欲を高めると共に、正しい使い方を教えていかなければならない。

低学年では、情報機器に初めて触れることから、コンピュータの便利さやコンピュータを使う際に気を付けなければならない点について、日常のモラルを基に学ばせる。基本的なコンピュータの操作ができるようになった中学年は、調べ学習などでインターネットの利用が始まることから、主に情報の収集における光と影について学ばせる。さらに高学年では、学校でWebページを作成する機会があることから、主に情報の発信における光と影について学ばせる。このような「情報社会の光と影」を児童自身に考えさせ、気付かせた上で、しっかりと情報モラルを教えていく必要があると考える。

#### (2) 継続を図った情報モラルの指導

今までも協力校Aにおいて、情報モラルに関する授業を行っているが、児童が学んだことをその場だけでなく、日常の生活に生かしていくことは、必ずしも十分ではなかったと考える。そこで、情

報モラルに関する授業で学んだことが持続し、日常生活に生かせるように、継続を図っていくことが大切であると考えた。授業で学んだ情報モラルが、自分自身を律し、学校や家庭において継続的に生かされることは、児童のインターネットを正しく安全に利用する考え方や態度の育成につながると考える。

### 2 実践の概要

#### (1) アニメーション教材の作成

アニメーション教材は、児童がすぐに登場人物の気持ちに入り込むことができることから、情報モラルの授業においても活用を行うと、内容が理解しやすくなるという効果が考えられる。本センターの先行研究（H14）で作成した小学校版のアニメーション教材もあるが、情報社会の進展に伴い、当時では想定していなかったような複雑なトラブルが、児童の身の回りに起きている。また、協力校Aの教職員の「事件やトラブルに対応した教材がない」という意見から、現在小学生の身の回りにも起こりがちなトラブルにも対応したアニメーション教材を作成した（図6）。

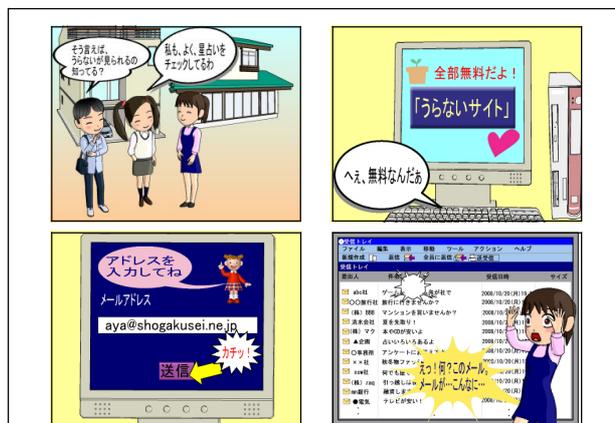


図6 「個人情報流出」のアニメーション教材

アニメーションの内容は、小学校からコンピュータを用いた授業が始まることや、インターネットに接続できる道具として、家族と共用のコンピュータの所有が多いというアンケート結果から、主にコンピュータを用いてインターネットを利用する場面を取り上げた。同時に、携帯電話や携帯可能なゲーム機など、インターネットに接続できる機器を所有している小学生も現在おり、今後はその所有が増えることが考えられるため、一部は携帯電話やゲーム機を使ってインターネットを利用する場面の教材も作成した（次頁表1）。

作成に当たっては、情報社会の影の部分を示す

だけでなく、「情報社会の光と影」の両面を示し、インターネットの正しく安全な利用につながるものになるようにした。アニメーションの長さは、情報モラルに関する授業の導入やまとめの場面などで活用できるように1分程度とした。

なお、アニメーションの内容を振り返る場面で活用できるように、ポイントとなる場面の静止画を教材ごとに各4枚作成した。

表1 情報モラルの指導項目と作成したアニメーション

	情報モラルの指導項目	追加作成したアニメーション
項目1	情報への判断力	・確かな情報を①（インターネットとインターネットの内容） ・確かな情報を②（インターネットと本の内容）
項目2	情報への責任	・Webページで情報発信 ・おもしろ半分な気持ちで（予告サイト）
項目3	個人情報への配慮	・個人情報①（知らないうちに個人情報流出） ・個人情報②（いたずらで個人情報流出） ・なんでこんなに？（占いサイト）
項目4	著作権などの尊重	・その写真のせてもいいかな？ ・えっ、私の写真が <ゲーム機> ・著作権
項目5	相手への配慮	・軽い気持ちで（掲示板）
項目6	安全への配慮	・そのメール、開いて大丈夫？（ウイルス） ・会ってもいい？（出会いサイト）
項目7	心身の健康への配慮	・ネットゲーム <携帯電話>
項目8	きまりの尊重	・食事中に <携帯電話>

(2) 「情報モラルハンドブック（小学校版）」（配付資料）の作成

小学校では、情報モラルを初めて学ぶことから、児童の発達段階に合わせて、情報モラルに関する内容を一つ一つ整理、確認できるような「情報モ

ラルハンドブック」（配付資料）を作成した。授業で学んだ内容が持続し、日常生活場面において継続して生かされるように、学習のまとめで一冊の本の形に綴じて持たせ、活用を図った。

ア 形式と構成

「情報モラルハンドブック」（配付資料）には、児童が指導項目の中身を理解しやすいように、項目ごとにテーマを作成してそれぞれのページの最初の部分に載せた（図7）。また、「情報社会の光と影」の両方の部分を図や説明で記載した。情報モラルの指導の八つの項目のすべてを身に付けてほしいという願いから、八つの項目のテーマの中の赤字を続けて読むと、「じょうほうモラル」という言葉になるように作成した（図8）。

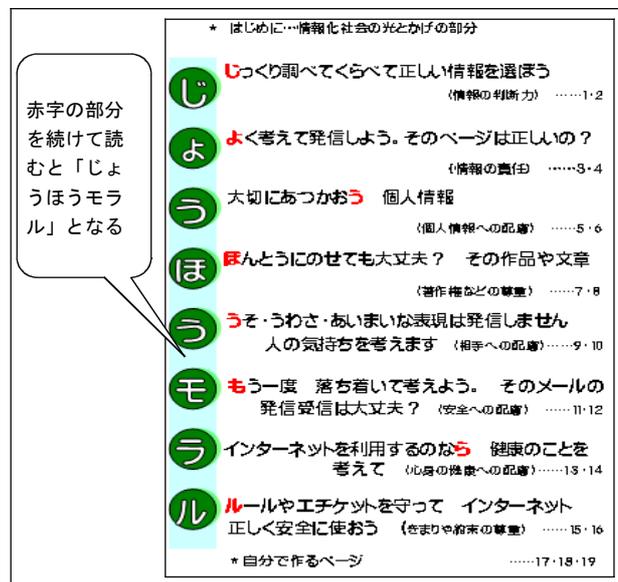


図8 「情報モラルハンドブック（小学校版）」の構成

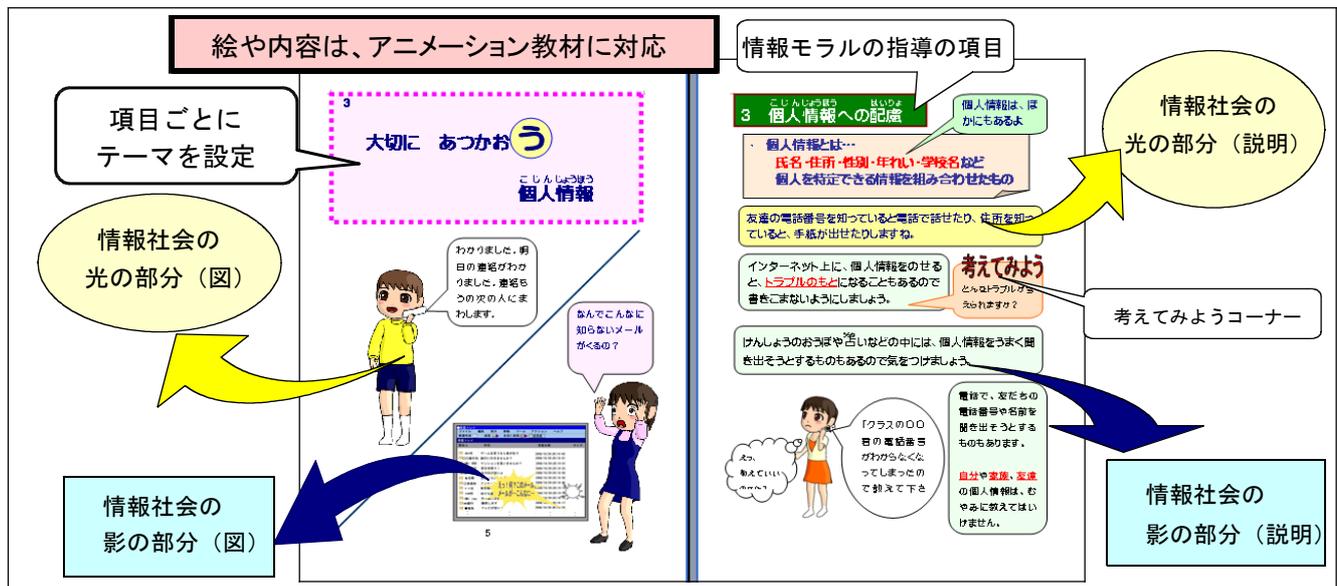


図7 各ページの構成(項目3 個人情報への配慮)

また、「情報モラルハンドブック」（配付資料）を一冊に綴じた大きさは、児童の手におさまり、利用しやすいA5版とした。

### イ 内容

情報モラルの指導の八つの項目一つ一つの内容について、情報モラルに関する授業で学んだことをまとめ、後で振り返ることができるように、アニメーション教材と対応させた内容で作成した。

児童の興味・関心が高まるように、絵や文章による一方的な説明だけではなく、「クイズ」や「考えてみようコーナー」なども設けて、インターネットを正しく安全に利用することに関する問いかけを載せることで、児童が楽しみながら自分で考える部分を作った。

また、「自分で作るページ」を用意し、情報モラルにかかわるニュースを見たり、聞いたり、情報モラルにかかわる場面に自分が出くわしたりしたときに、自分の考えたことを記入できるようにした（図9）。

これは、情報モラルに関する授業中だけではなく、ふだんから情報モラルを意識し、日常生活の様々な場面で、自分で考え、気付いたことを文章として書き、情報モラルに関する知識の積み重ねを行っていくことを目的としている。

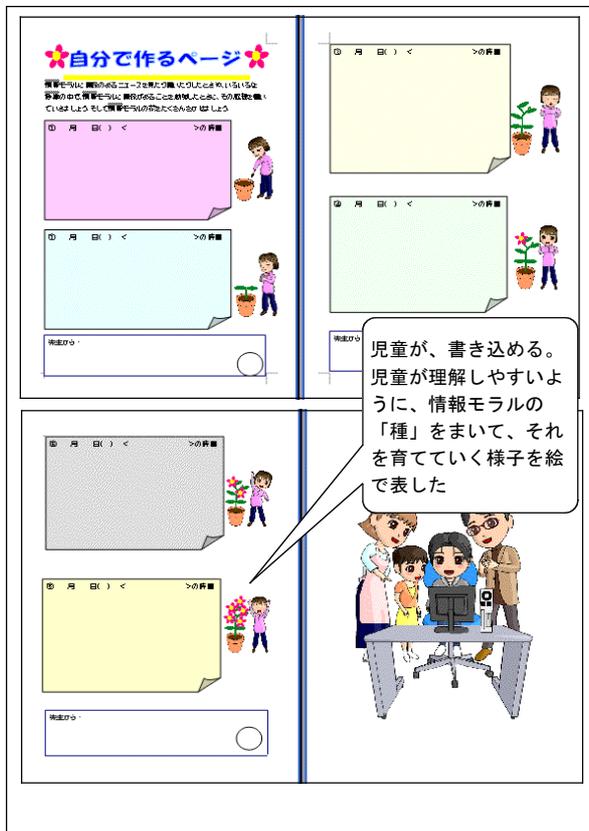


図9 自分で作るページ

### (3) 展開例と用語の解説の作成

協力校の教職員の「専門的な言葉が分からない」という意見から、情報モラルの指導を行いやすくするために、アニメーション教材や「情報モラルハンドブック」（配付資料）を活用した授業の展開例、専門的な用語の解説を作成した。

### 3 授業実践

小学校5年生の総合的な学習の時間において、市の歴史などを調べてWebページで発信する单元の中で、情報を収集する場面と、Webページを作成し発信する場面に必要な情報モラルについて、2時間の授業実践を行った。この授業では、アニメーション教材によって「情報社会の光と影」を示し、学んだことを後々まで継続していくことができるように、ハンドブックを活用した（図10）。

#### (1) 授業実践の概要

対象	協力校（小学校5学年）
教科	総合的な学習の時間
単元	私たちの市を調べて発信しよう （30時間中の情報モラルに関する2時間）
実施時期	平成20年10月
授業者	長期研修員 丸山 千恵美
単元目標	自分たちが住んでいる市について、正しく情報を収集し、Webページで発信をすることを通して、自分たちが住んでいる市についての理解を深める。

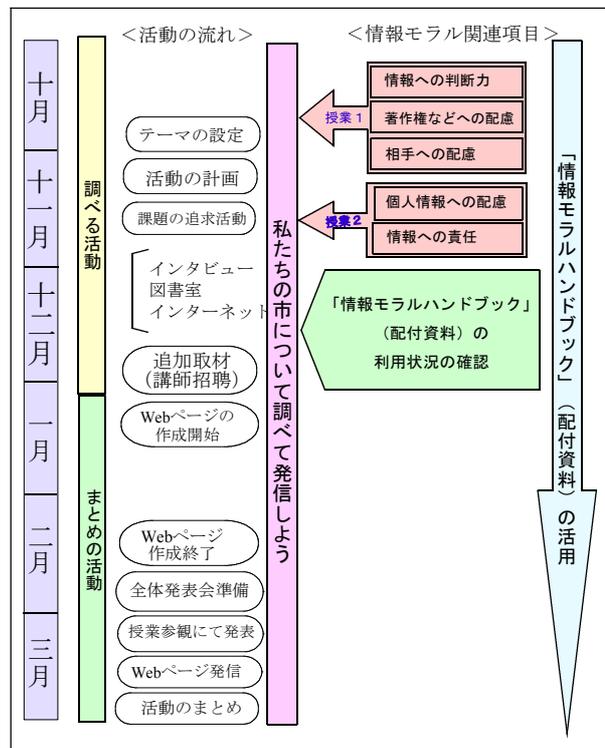
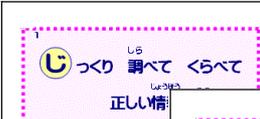
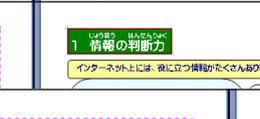


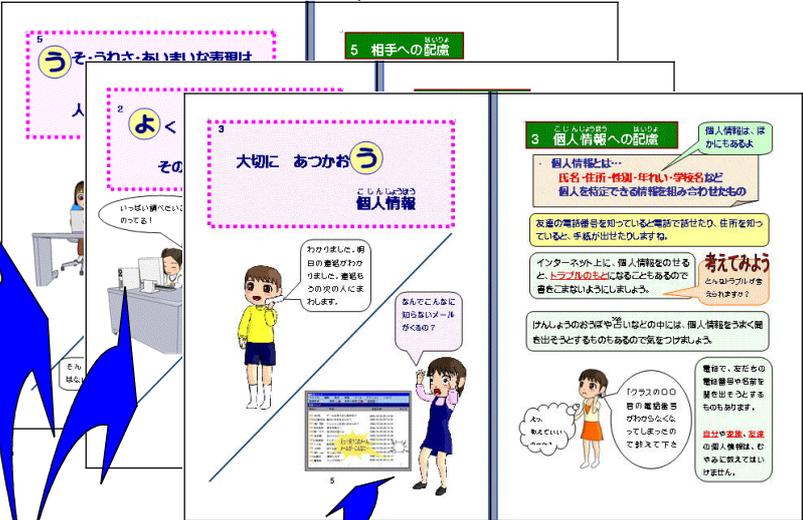
図10 授業実践の流れ

(2) 授業計画（「私たちの市について調べて発信しよう」の授業30時間中の情報モラルの授業2時間分）

	学習活動	モラル指導項目	ねらい	評価の観点（方法）
1	・ 確かな情報の収集について学ぶ	・ 情報の判断力 ・ 著作権などの尊重	Webページで調べる利点を知り、より確かな情報を得ることと著作権の大切さを理解する。	確かな情報を収集する方法について理解できたか。 （授業中の発言・ワークシート）
2	・ 情報を発信の際に注意すべきことを学ぶ	・ 個人情報 ・ 情報への責任 ・ 相手への配慮	Webページの発信の利点を知り、責任をもって発信することの大切さを理解する。	インターネット上に情報を発信するときには、責任をもって行う必要があることに理解できたか。 （授業中の発言・ワークシート）

(3) 授業実践の経過

	主な学習活動	教材の活用	児童の感想、発言等
授業1	<p>Webページを調べる利点について話し合う</p> <p>○今まではどのような調べ学習をしてきたか思い出す。</p> <p>○アニメーション①「確かな情報」を見て、正しく情報を収集する方法について話し合いを通して気付く。</p> <p>○アニメーション②「著作権」を見て、本やインターネットを使って情報を収集するときに気を付けなければならないことについて、話し合いを通して気付く。</p>  <p>グループでの話し合いの様子</p> <p>○「情報モラルハンドブック（配付資料）」で、情報を調べるときに大切なことを確認し、ワークシートにまとめる。</p>	<p>☆アニメーション教材〔動画：1分15秒〕、静止画4枚</p> <p>☆アニメーション教材〔動画：1分〕、静止画4枚</p>     <p>☆「情報モラルハンドブック」（配付資料）関連ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報への判断力</li> <li>・ 著作権などへの配慮</li> </ul>	<p>&lt;児童の意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ たくさんの情報を調べられる</li> <li>・ はやく、くわしく調べられる</li> <li>・ かんたんに調べられる</li> </ul>  <p>授業後の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからは、最初に開いたサイトのほかに、ちがうサイトも調べてみようと思った。</li> <li>・ 学校や家などでのインターネットの正しい使い方がよくわかってよかった。これからも、今日学んだことを生かして、インターネットを使いたいと思う。</li> </ul>

主な学習活動	教材の活用	児童の感想、発言等
<p>Webページを発信することのよい点を話し合う</p> <p>○アニメーション③「個人情報」を見て、個人情報はなぜ大切なのかワークシートに記入したことを話し合い、どのようにしていったらよいか気付く。</p> 	<p>☆アニメーション教材〔動画：1分〕、静止画4枚</p>   <p>アニメーション教材の画像</p>	<p>&lt;児童の意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中の人に見てもらえる</li> <li>・たくさんの人に見てもらえる</li> <li>・いろいろな人とやりとりができる</li> </ul>  <p>アニメーション教材の利用の様子</p>  <p>静止画の利用の様子</p>
<p>○アニメーション④「責任のある発信」を見て話し合い、間違った情報をインターネット上に発信してしまう影響の大きさに気付く。</p>  <p>○「情報モラルハンドブック」(配付資料)で確認し、情報を発信する際の心構えをまとめる。</p>	<p>☆アニメーション教材〔動画：1分5秒〕、静止画4枚</p>  <p>☆「情報モラルハンドブック」(配付資料)関連ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手への配慮</li> <li>・情報への責任</li> <li>・個人情報への配慮</li> </ul>	<p>授業後の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報はむやみに教えないようにしたい。</li> <li>・見た人がどんな気持ちになるか考え発信する。</li> <li>・Webページには、正確な情報をのせていきたい。</li> <li>・情報を発信する前に、よく見直していきたい。</li> </ul>

\*配付資料を綴じ、一冊の「情報モラルハンドブック」として持たせ、その後の授業に活用した。

#### 4 教育実践の結果と考察

##### (1) 「情報社会の光と影」から学ぶ情報モラル

情報の収集と発信における情報モラルについて学んだ後、児童は以下のような感想を記述した。

＜児童のワークシートより＞

- ・インターネットは、とてもかんたんにいろいろな情報が分かるので便利です。だけど、確かではないことなども書かれているので、注意して調べようと思いました。
- ・Webページを発信すると、世界中の人が見られることが分かりました。だから、正しい情報を発信していきたいです。
- ・自分たちのWebページに人の文を使うときには、勝手に使わないで許可をとろうと思います。
- ・個人情報の大切さにびっくりしました。個人情報をインターネット上にもらさないようにしたいです。

この授業で学んだ情報モラルについて、情報社会の光と影を理解し、インターネットの便利さと気を付けて使わなければならないことへの意識をもつことができたと考える。

また、アニメーション教材の活用して「情報社会の光と影」の部分を示す場面では、児童が映像と音声に集中して、興味・関心が高まった様子が見られた。アニメーション教材を見て、「Webページは、全国の人に見てもらえるんだ」という発言があったり、不確かな情報を発信しようとする場面で「あっ！発信したらダメ！」という声が教室のあちこちからあがったりするなど、「情報社会の光と影」の両面をとらえていた様子が伺えた。また、コンピュータの向こう側にいる相手の立場や気持ちまでとらえやすくなった様子も見られた。このように、アニメーション教材を用いて「情報社会の光と影」を示すことは、情報モラルを学ぶ場面で有効であったと言える。さらに小学校版のアニメーション教材では、インターネット利用においてトラブルに遭う例だけでなく、正しい使い方を示した内容もあると、インターネットを正しく安全に利用していこうという意識が高まると考える。

##### (2) 継続を図った情報モラルの指導

授業で活用した「情報モラルハンドブック」(配付資料)を、授業後2週間の間、児童の手元に置き、授業などで用いた様子を調べた。

2週間のうち、自発的に「情報モラルハンドブック」(配付資料)を「2

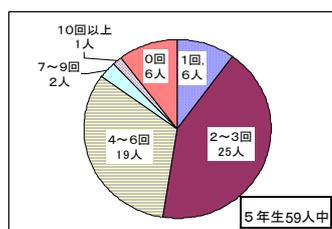


図11 2週間で、「情報モラルハンドブック」を見た回数

～3回見た」児童が一番多く25人、続いて「4～6回」が19人、7回以上見た児童もいた(図11)。9割の児童は、手元の「情報モラルハンドブック」(配付資料)を1回以上見たことが分かった。また、内容については、「おぼえやすい」「絵や文や標語があるから、内容が分かりやすかった」「こういうときは、どうするか分かった」という感想から、発達段階に適したものであったと考える。

「情報モラルハンドブック」(配付資料)を2週間持っていたことについて(図12)は、「何回も読んだら、分からないことが分かった」(77.9%)という感想が多く、続いて「授業の内容を思い出すことができた」が多かった。また、「Webページ作りに生かしてみようと思った」「授業の内容を思い出してインターネットを使おうと思った」と、今後のインターネット利用の態度につながる記述も見られた。

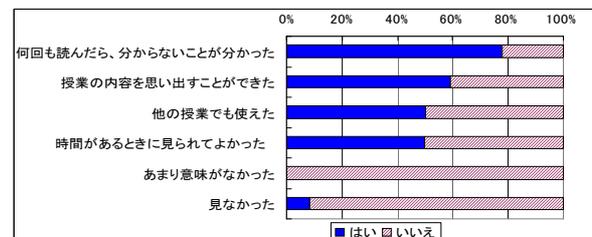


図12 「情報モラルハンドブック」を2週間持っていた感想(複数回答可)

授業で学んだ五つの項目を、2週間後にどの程度、覚えているかを調べた(図13)。その結果、「確かな判断力」と「著作権」については全児童が学んだ内容を記述できた。五つの項目すべてを記述した児童は81%であった。このことから、授業で学んだことが定着してきている様子が伺えた。実践後の授業においても、「もう一回調べ直そう」「この書き方は失礼じゃない？」などと声を掛け合う姿が見られるようになった。

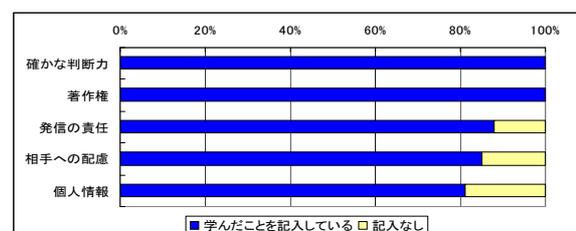


図13 2週間後の項目ごとの定着の様子

以上のことから、「情報モラルハンドブック」(配付資料)を活用することで、授業で学んだことの継続を図ることができたと考える。

## V 調査結果を生かした協力校B(中学校)における教育実践

### 1 実践の基本的な考え方

#### (1) 「情報社会の光と影」から考える情報モラル

協力校Bでは、インターネットを長時間利用している生徒の割合が多い。その一方で、インターネットの利用経験の少ない生徒も見られ、それぞれの生徒で利用の仕方に差がある。長時間インターネットを利用する生徒の中には、トラブルに巻き込まれるケースもあり、学校側も対処的に指導する場面が多い。指導する内容も、情報社会の影の部分に強調したものになりがちである。しかし、こうした影の部分に強調した指導では、利用経験の少ない生徒は、インターネットを積極的に利用する意欲自体も低下しかねない。今後さらに進展していく情報社会の中で生きていくためには、インターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度を身に付けていくことがすべての生徒たちにとって必要となる。そこで、インターネット利用の良い点や便利な点など情報社会の光の部分からまず最初に取り上げてから、影の部分について学習していくようにする。

また、中学生は、自立心が強くなり、自分で判断し行動していこうとするようになる。そのため、禁止や制限ばかりを強調した指導ではなく、自分で考え、判断し、納得できるような学習を行うことが大切である。そこで、インターネット利用の具体的な場面を設定して、そこから気付いたことを基にインターネットを正しく安全に利用していくためには、どんなことに注意していけばよいかその心構えを生徒自身で考えさせる。こうした学習を通して、生徒は、正しく安全な利用の仕方について、自分なりの考え方や態度をはっきりと意識することができる。と考える。

#### (2) 継続を図った情報モラルの指導

中学生になると、物事を本音の部分と建前の部分に分けて考えるようになり、道徳や学級活動などの授業で学習したことを建前としてとらえ、自分の日常生活とは結びつけようとはしない場合が多くなっていく。協力校Bにおいても、インターネットを長時間利用している生徒の中には、「出会い系サイト」「自殺サイト」を「危険だと思う」と答えておきながら、そのサイトを実際に関連していると答えた生徒もいる。日常生活におけるインターネット利用にかかわる問題などがなかなか

改善されにくい実態が見られる。授業で学習したことが日常生活の自分の考え方や態度に反映されるように、継続した情報モラルの学習をしていく必要がある。

そこで、授業だけでなく、日常生活の中で情報モラルをより一層意識できるように、自分が気になる情報モラルについて調べてくる課題を設定する。また、朝や帰りの会などでも情報モラルについて取り上げたり、学校行事と関連させたりしていく。このように、様々な場面と結びつけて日常生活の中で情報モラルを継続的に意識させることで、インターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成につながるものと考えている。

### 2 実践の概要

#### (1) アニメーション教材の作成

協力校Bでは、調査結果からインターネットに接続できる道具として、自分専用の携帯電話の所有率が高学年になるにつれ上がっている。携帯電話からのインターネット接続場面は、コンピュータからの場合と異なる部分が多く、アニメーション教材などを使って具体的な場面を示さないと分かりにくい。一方、17年度に作成された「学校における情報モラルの指導資料集」の中学校編の中には、アニメーション教材がない。また、携帯電話を題材とするなど生徒の利用実態にあった教材が少なく、指導しにくいという協力校Bの教職員からの意見もあった。

そこで、携帯電話を利用している場面を取り上げるなど、生徒の利用実態にあった様々なアニメーション教材を作成する(図14)。

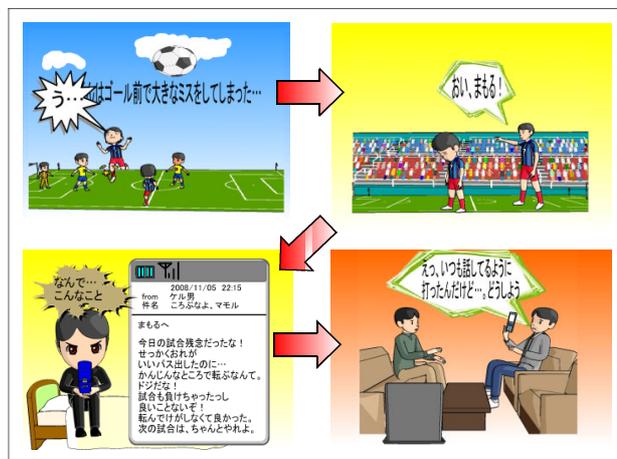


図14 メールを扱ったアニメーション教材の例

作成にあたっては、小学校と同様に、八つの指導項目に基づいて行う(次頁表2)。

表2 情報モラルの指導項目と作成したアニメーション

	情報モラルの指導項目	作成したアニメーション
項目1	情報への判断力	・インターネットの利用 ・情報の信頼性
項目2	情報への責任	・Webページを発信
項目3	個人情報への配慮	・プライバシーの尊重 ・情報のダウンロード
項目4	著作権などの配慮	・著作権の尊重
項目5	相手への配慮	・メールのやりとり ・掲示板の書き込み ・携帯電話のマナー ・モバイルゲーム
項目6	安全への配慮	・ウィルスへの対処 ・不正アクセス ・有害情報への対処 ・インターネットショッピング
項目7	心身の健康への配慮	・心と体の健康
項目8	きまりの尊重	・ネットワーク上のエチケット

アニメーションの内容は、インターネット利用の具体的な場面を取り上げ、利用の経験が少ない生徒でも、情報モラルの課題について生徒自身が気づき考えられるようになっている。各アニメーションは、登場人物の心情や状況をイメージしやすくなるようにしながらも、長さを1分前後にし、短い時間でも情報モラルの指導で活用できるようにした。

## (2) 「情報モラルハンドブック」(中学校版)の作成と活用

### ア 情報モラルハンドブックの作成

中学校においても、生徒が情報モラルについて学習する際に、情報社会の光の部分と影の部分について学習できる教材や、継続して指導するのに役立つ教材が少ない。そこで、授業やふだんの学校生活において取り上げたり、生徒がいつでも自分で見たりできる情報モラルハンドブック(以下、ハンドブックとする)を作成し、様々な場面で活用できるようにした。

小学校と同様に「学校における情報モラルの指導資料集」にある中学校の指導内容の八つの項目に基づいて作成した。情報モラルの内容を、イラストや図を多く取り入れて、インターネットの利用経験や知識の少ない生徒でも、自分で読んで分かるようにした。

また、ハンドブックの構成は、各内容項目を表と裏のページで一組となるようにした。光の部分から学習できるように、表のページには、情報社会の基本的な知識や便利で有効な点について載せ

た。裏のページには、影の部分で踏まえた情報社会の注意する点や課題などがまとめてあり、課題について自分で考え、インターネットを正しく安全に利用するための心構えを書き込めるようになっている(図15)。

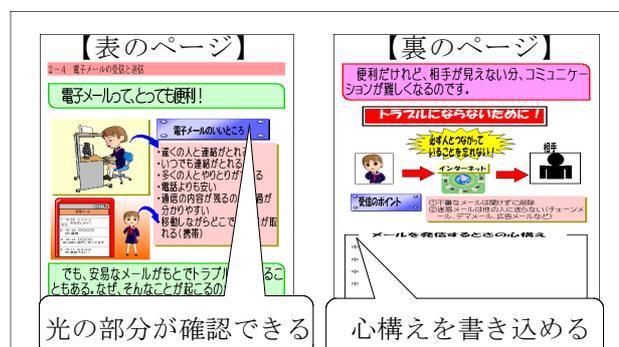


図15 表と裏で一組となっているハンドブックの構成(例)

大きさは、A5版で携帯しやすくし、冊子の形で生徒一人一人に持たせた。ふだんから冊子の形で持たせておくことで、授業だけでなく、情報モラルについて自分で分からないところを調べたり、興味をもったところについて確認したりできるようにした。

### イ ハンドブックを活用した工夫について

ハンドブックの心構えは、授業で一度記入しただけでなく、それ以後の授業や他の場面でも、気付いたときに修正や追加ができるようにし、自分の考えを深められるようにした。

さらに、ハンドブックの最後には、自分の考えをまとめるページを用意した。このページは、ふだんの生活の中で、学習したことを基に、自分なりの考え方をまとめられるようになっている。その中の一つに「インターネット利用時の十箇条」のページを設定し、生徒が、自分のインターネット利用状況に応じた心構えを、いつでも書き込み、確認できるようにした(図16)。

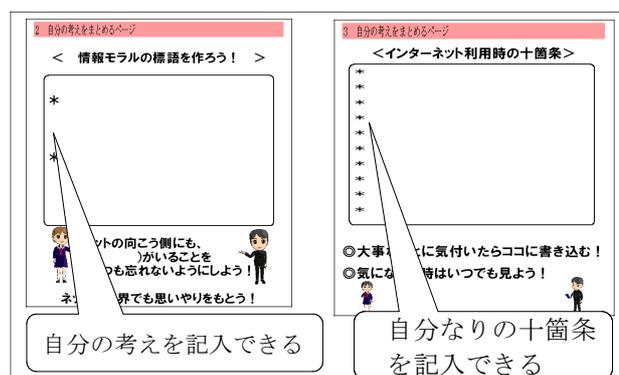


図16 自分の考えをまとめるページ

### (3) 展開例と用語解説の作成

中学生の実態にあったアニメーション教材やハンドブックを作成するだけでなく、それをどう授業の中で活用していくか、例示をしていく必要がある。また、情報社会の新しい動きに対応できず、「専門的な言葉が分からない」など情報モラル教育を行うことに対して不安に感じている教職員も多い。そこで、それぞれの教材にあった授業の展開例、用語の解説資料などを作成した。

### 3 授業実践

中学校2年生にとって、2学期は、生徒会や部活動の中心となる場面が増え、自分たちで考え、判断していこうとする意識が高くなる。そこで、この時期に情報モラルについて、自分たちで気づき考える学習を行うことは、生徒にとって効果的

であると考え、協力校Bの2年生に対して、総合的な学習の時間の中でアニメーション教材とハンドブックを活用し、授業実践を行った。また、人権週間で情報モラル標語を作るなど、学校行事とハンドブックを結びつけた実践も行った。

#### (1) 授業実践の概要

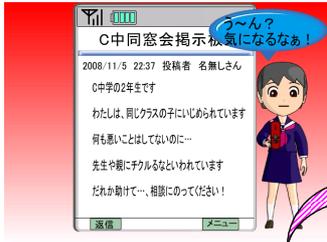
対象	協力校B（中学校第2学年）
教科	総合的な学習の時間
単元	情報モラルを学ぼう（全2時間）
実施時期	平成20年11月
授業者	長期研修員 中里則夫
単元目標	情報社会の良い点や注意する点を知り、情報社会に適切にかかわろうとする考え方や態度を身に付ける。

#### (2) 授業計画

	主な学習活動	指導項目	ねらい	検証の観点
1	○メールの良い点や注意する点に気づき、課題について自分の心構えを書く。	「相手への配慮」 「個人情報への配慮」 (ハンドブックの活用)	○メールの良い点や注意する点に気づき、ハンドブックに自分の心構えを記入することで情報モラルへの関心を高める。	ハンドブックに自分で考えた心構えを記入している。
2	○情報モラルについて、調べてくる課題について発表する。 ○アニメーション教材「掲示板の書き込み」を見て、続きを自分で考えて書く。	「相手への配慮」 「個人情報への配慮」 「情報への判断力」 (ハンドブックの活用)	○掲示板の事例について、自分で注意点を考え書き込むことで、情報社会に適切にかかわろうとする考え方や態度を育てる。	ハンドブックに、掲示板の書き込みの続きを注意する点を考えて記入している。

#### (3) 授業実践の経過

	主な学習活動	教材活用場面	生徒の感想、発言等
授 業	電子メールのよさについて話し合う	光の部分に気付く ☆アニメーション教材「メールのやりとり」〔動画：1分55秒〕	生徒の意見 ・連絡がいつでも、どこでもとれる ・手軽で便利 ・電話で言えないことも書ける
	アニメーション教材「メールのやりとり」を見て、どうしてトラブルになってしまったか話し合う ○ハンドブックで、メールについて大切なところを確認し、今後、自分では、どのような心構えで利用していくか、ハンドブックに記入する。 ○次回までの課題を確認する。「今日やったことを基にさらに調べてみたいことを調べる。」	注意する点に気付く ☆ハンドブック 〔P13電子メールの送信・受信について〕 〔P14メールを発信する時の心構え〕 〔P9 個人情報の保護について〕 心構えを考える	生徒の意見 ・メールの内容がはげましじゃなく、いやみにとれる ・言い方がきつい、命令口調だ ・悪口に思える ・相手のことを考えてない 生徒が書いた心構え メールを発信するときの心構え *相手に失礼がないように迷惑に読まず *相手の気持ちと教える * * Food!
	日常生活の中で情報モラルを意識させる課題を設定することで、1時間目で学習した情報モラルへの関心を高め、2時間目へつなげる		ハンドブックには、自分で気付いたときにいつでも自分の考えや心構えを修正したり、追加したりできるようにする
	情報モラルへの関心を持続する		

	主な学習活動	教材活用場面	生徒の感想、発言等
授 業 2	<p>○調べてきた宿題を発表する。</p> <p>○自分で調べたことや友達の発表を聞いて前時に書いた心構えの変更や追加を行う。</p> <p>掲示板的よさについて話し合う</p> <p>アニメーション教材「掲示板の書き込み」を見て、書き込みの続きを自分で考えて書いてみる</p>  <p>○ハンドブックを使って、掲示板の利用時の大切なところを確認し、今後、自分では、どのような心構えで利用していくか、ハンドブックに記入する。</p>	<p>☆ハンドブック 〔P14メールを発信する時の心構えのところ、自分で追加した内容を日付を入れて記入させる〕</p> <p>光の部分に気付く</p> <p>☆実物投影機で掲示板の良い例を見せる（ガン患者を励ます掲示板を使用）〔静止画：1枚〕</p> <p>☆アニメーション教材「掲示板の書き込み」 〔動画：49秒、静止画：1枚〕</p>  <p>注意する点に気付く</p> <p>☆ハンドブック 〔P15掲示板の利用について〕 〔P16掲示板の利用の心構えについて〕</p> <p>心構えを考える</p>	<p>生徒が追加した内容</p> <p>メールを発信するときの心構え</p> <p>*相手に失礼がないように迷惑な項目は避ける <b>Good!</b></p> <p>*相手の気持ちを考える。</p> <p>*<b>機械でしか人と話している事とわかってもらえない。</b></p> <p>*<b>宛先メールアドレスを間違えない。</b></p> <p>追加した内容</p> <p>生徒の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ趣味の人と話せる</li> <li>・いろいろな情報が分かる</li> <li>・はげましあえる</li> </ul> <p>生徒が書いた書き込みの続き</p> <p>この後、自分だったらどのような書き込みをしますか？</p> <p>大丈夫。 とりあえず、親には言ってみよう。親は秘密と大事にしてるから。 あと、この書き込みはもしかしら、クラスの人に見られるかもしれないから、この書き込みは消そうな!</p> <p>その時、どのような点に注意しましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*相手を傷つけないように</li> <li>*元気づける</li> <li>*個人情報を守る</li> </ul> <p>生徒が書いた心構え</p> <p>掲示板に書き込むときの心構え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*内容がエスカレートしないように</li> <li>*悪意のある人もいるから気をつける。</li> <li>*相手を傷つけていないか文をもう一度確認する</li> <li>*言葉づかいに気をつける。</li> </ul>

#### 4 教育実践の結果と考察

##### (1) 「情報社会の光と影」から考える

授業1において、メールのよさと注意する点を挙げさせた後、「メールのやりとり」のアニメーション教材を視聴させた。生徒は、授業を通してメールを利用する際に注意しないと起きてしまうトラブルの原因を考え、次のように記述した。

〈メールのトラブルが起きてしまった理由〉

- ・メールの内容が励まじやなく、いやみにとれる
- ・言い方がきつすぎる
- ・命令口調だ
- ・悪口に聞こえる
- ・相手のことを考えていない
- ・言葉のニュアンスが伝わっていない

アニメーション教材から、インターネットの利用経験の少ない生徒でも「相手への配慮」、「文字のコミュニケーション」などメールを利用する場合の具体的に注意する点について、自分たちで気付くことができていた。

また、ハンドブックに書かれている光の部分や注意する点について自分で読み直し、アニメーション教材から気付いたことを基にメール発信時の心構えを自分の言葉で記述することができた。

〈多くの生徒が書いたメール発信時の心構え〉

- ・内容を確認する
- ・言葉遣いに気を付ける
- ・悪口を書かない
- ・相手の気持ちを考える

授業2の掲示板の書き込みの続きを考える授業では、相手の気持ちを考えて次のような具体的な書き込みができた。

〈掲示板の続きの書き込み〉

- 「自分で良ければ相談にのるよ。」
- 「先生や親に相談した方が良いと思います。友達に聞いてもらって、味方になってもらえば良いと思います。」
- 「一人で悩まず、無理をしない方が良いよ。大丈夫？」

アニメーション教材を使って続きを考えさせることで、生徒は、現実の掲示板に近い状況を頭に浮かべながら自分の意見を記述することができたようである。

また、続きを書くときに注意する点として、「相手をはげますようにする」「思ったことを分かりやすく書く」などを挙げている。利用経験の少ない生徒でも、授業1で学習した「同じ悩みをもった人と話ができる」「いろいろな相談ができる」など掲示板のよさを意識しながら、自分で考えた書き込みの続きを書くことができた。

さらに、授業実践の2週間後、初めてメールを使う人へのアドバイスとして、そのよさと注意する点について生徒に聞いたところ、次のような記述が見られた。

〈メールを初めて使う人に、メールのよさを教えるとしたら、どのようなことを伝えますか。〉

- ・いつでも、どこでも連絡がつく
- ・手軽で便利
- ・口で言えないことがメールだと言える

〈メールを初めて使う人に、メールの注意する点を教えるとしたら、どのようなことを伝えますか。〉

- ・相手の気持ちを考える
- ・文字のコミュニケーションに注意する
- ・送信前に内容を確認する
- ・言葉遣いに気を付ける
- ・不審なメールは開かない、送らない
- ・個人情報に注意するなど

生徒は、「手軽で便利」など、メールのよさに気付いた上で、影の部分について強調するのではなく「送信前に内容を確認する」など利用する場合の具体的に注意する点を自分の言葉で挙げている。初めてメールを使う人に対して、このようなアドバイスを書けたことは、メールを正しく安全に使うことがどういうことなのか、自分なりの考えをそれぞれの生徒がもてたものと考えられる。

## (2) 継続性を図った情報モラルの指導

授業2の初めに、前時に出した「今日やったことを基にさらに調べてみたいことを調べてくる」という宿題の発表を行った。生徒が調べてきた内容を見ると、多い順に「個人情報の取扱い」「メールのトラブル防止」「インターネットの安全な利用法」であった。中には、ハンドブックを使って、個人情報保護法のことや著作権法のことまで詳しく調べてきた生徒もいた。授業で扱った内容以外のことを調べてくる生徒も多く、宿題を設定したことで日常生活の中でも、気になる情報モラ

ルに関することを一層意識することができたと考えられる。

発表後、「他の人の発表を聞いて、メール発信時の心構えとして追加したいことがある場合には、ハンドブックに日付を入れて書き込む」ように指示すると、114人中67人の生徒が心構えを自分から追加した。生徒が追加した心構えの具体的な内容は、次の通りであった。

### 〈追加されたメール発信時の心構え〉

- ・誤字脱字がないか、宛先などが間違っていないかよく確かめる
- ・相手に誤解されてしまうような文章を書かない
- ・何度も読み返して相手が傷つく内容でないか確認する
- ・文字のコミュニケーションなので、1文字1文字を大切に
- ・画面の向こうに人がいることを忘れない

自分で調べたり、宿題の発表を聞いたりすることで、初めに書いたメール発信時の心構えよりも、具体的で実際に利用するとき役立つ心構えを追加した生徒が多かった。

さらに、授業実践の2週間後、人権週間の中で情報モラル標語を作成する授業を行った。その時114人中54人の生徒が、ハンドブックを参考にしながら標語を作成した。ハンドブックの八つの項目のうち、どのページを参考にしたか確認したところ以下の通りであった。

### 生徒が参考にしたハンドブックの項目と人数（複数回答）

1-②情報の信頼性	1人
2 情報への責任	3人
3-①人権プライバシー	4人
3-②個人情報の保護	8人
4 著作権の尊重	2人
5-①電子メールの受信と送信	10人
5-②電子掲示板の利用	12人
5-③携帯電話の利用	7人
5-④チャットやオンラインゲーム	2人
6-①コンピュータウィルス	1人
6-②不正アクセス	4人
6-③有害サイトへの対処	3人
8 ネットワーク上のエチケット	11人

### 生徒が作った標語と参考にしたハンドブックの項目

- 作品1「インターネット、ルールを守って楽しく活用」  
参考にした項目（5-②電子掲示板の利用）
- 作品2「守ろうよ、侵害しない著作権！」  
参考にした項目（4著作権の尊重）
- 作品3「書き込まない！悪口、批判、個人情報」  
参考にした項目（8ネットワーク上のエチケット）

ハンドブックを参考に標語を作成していた生徒の多くは、授業で扱ったハンドブックの電子メールの内容や掲示板の内容を参考にしていた。また、授業で扱わなかった内容について、自分で他のページを参考にして標語を作る生徒も見られた。特に、ネットワーク上のエチケットの項目を参考にした生徒が多く、インターネットを利用する際のルールやマナーを意識するようになったことが分かる。

作品1の生徒は、授業で扱ったハンドブックの項目を参考に、インターネットの利用に関する標語を作成した。作成した動機を聞くと、「自分は、あまりインターネットを利用する方じゃないけど、授業でやった掲示板の内容とハンドブックの解説から、ルールを守って使うと気持ちよく使えることが分かった」と答えた。これは、インターネットを利用する上で、授業で扱ったハンドブックの内容が役立つものだと思えたからだと考えられる。

作品2の生徒は、授業で扱わなかった著作権のページを参考に、標語を作成した。著作権を選んだ理由を聞くと、「ふだんからイラストのWebページを見ていて、著作権について気になっていた」と答えた。この生徒は、ふだんの生活の中で自分が気になっていたことを、手元にあったハンドブックを活用することで、情報モラルについて一層興味をもつことができたと考えられる。

作品3の生徒は、「自分は、携帯電話のメールをよく使うが、自分の生活の中でインターネットにかかわるトラブルが起こったときにハンドブックが活用できると思い、全部のページに目を通した」と答え、ネットワーク上のエチケットのページを参考に、標語を作成した。これは、ハンドブックが自分の生活の中でインターネットを正しく安全に利用する上で有効であると実感できたためであると考えられる。

以上のようなことから、アニメーション教材を提示し、インターネット利用の良い点と注意する点に気付かせ、それを基にハンドブックに心構えを書かせることで、生徒は自分が実際に利用する場面を意識しながら、正しく安全な使い方について自分の考えをもつようになり、情報モラルについての理解を深めることにつながった。また、ハンドブックを活用した学校行事での標語作りや授業後の課題を設定するなど情報モラルへの関心が継続できるような指導を行うことで、生徒は自分

で気になることを調べたり考えたりするなどふだんの生活の中でも情報モラルに対する意識をこれまでよりもつよくなった。

## VI 研究のまとめ

児童生徒にインターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度を育成するために、「情報社会の光と影」から情報モラルを理解させ、継続を図った情報モラルの指導に取り組んだ。その結果、以下のようなことが明らかになった。

### 1 成果

- 「情報社会の光と影」を示すことにより、情報社会の便利で良い点を、より有効に活用していくためには、どんな点に気を付ければ良いかを児童生徒自身が考え、気付かせることによって、情報モラルへの理解が深まることが分かった。
- 継続を図った情報モラルの指導を行うことにより、児童生徒の情報モラルに対する意識が持続され、インターネットを正しく安全に利用するための考え方や態度の育成に有効であるということが分かった。
- 情報社会の現状を踏まえ、学校の実態、児童生徒の発達段階に応じた情報モラルの取組が有効であることが分かった。

### 2 課題

- 本研究で作成したアニメーション教材や「情報モラルハンドブック」などを用いた情報モラル指導計画を立案し、有効に活用する。
- 日々進化する情報社会に対応した教材や、児童生徒自身が疑似体験できる教材を作成し、情報モラルの指導教材の充実を図る。

### <参考文献>

- ・『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』 社団法人 日本教育工学振興会(JAPET)(2007)
- ・『学校における情報モラルの指導資料集』 群馬県総合教育センター(2006)
- ・ネット社会の歩き方 (<http://www.cec.or.jp/net-walk/>) 財団法人 コンピュータ教育開発センター